

シャンソン歌手

でぐち みほこ
出口 美保子

プロフィール

1937年、大阪市生まれ。府立天王寺高校卒業。会社員時代に菅美紗緒さんが関西で開講したシャンソン教室の生徒第1号に。その直後の病気入院などでシャンソンから離れるが、27歳で正式に菅さんに師事。2年後の67年、同じ門下生とのジョイントリサイタルで初舞台。翌年にはビクターから「ザ・ラストワルツ」でレコードデビューを果たす。79年、ライブハウス「シャンソニエ・ジルベール・ベコー」を開店。現在も定期的にリサイタルを開いているほか、シャンソン教室も主宰している。



シャンソン教室での風景(写真提供:出口さん)

歌が好きで、おしゃべりができる人なら歌えます

市立弁天町市民学習センターの事業のひとつに、「芸術文化サロン」がある。気軽に芸術に触れ合う機会が得られる講座で、今回は6月からスタートする「日本語で歌うやさしいシャンソン」教室。シャンソン歌手の出口美保子さんが講師となる、初心者向けの企画である。

この教室の特徴は、フランス語が原語のシャンソンを「日本語で歌う」ところにある。「詩の意味が理解できなければ、歌えませんね。だから、意味の理解できる日本語で歌ってもらうのです」と出口さん。入門に際して、歌ごころの有無や声の良し悪しについては「音楽が好き、歌が好きだったら大丈夫。おしゃべりができる人なら歌えます」と。

そのうえで、「シャンソンを始めるのに、音楽を勉強したことがないなど心配される方もおられますが、『そんなことはないですよ』とよく話すんです。私はシャンソンは3分間のドラマだと思っています。集中して主人公になりきってセリフ(歌詞)を覚えてくだされば、人前でも歌えるくらいにはなりますよ」と目を細める。

◇「シャンソンのパイオニア」に惹かれ◇

出口さんは、大阪生まれの大阪育ち。高校時代は陸上部でハードルと短距離を得意種目とする、活発な“なにわ娘”だった。

そんな出口さんがシャンソンに惹かれたのは、OLをしていた25歳の時だ。「新聞に『日本シャンソン界のパイオニア・菅美紗緒 関西にシャンソン教室開講』という記事が載ったのです。パイオニアと言われる人って、どんな人なのかお目にかかりたくて…」。

父親がクラシックレコードを好みつつ詩吟や浄瑠璃を習い、母親は唱歌を口ずさむ「和洋折衷の音楽環境(笑)」で育ち、シャンソンとは全く無縁だった。だが、「どんな人なのか興味があって訪ねた」教室が、出口さんを、全くの別世界に導くことになる。

関西で1番目の生徒として参加したシャンソン教室。ところが、数回通っただけで病気のため“欠席”することに。自宅療養を終え再び教室を訪ねたのは3年後である。意外だったのは、このとき菅さんから、出口さんが欠席中も

通い続けていた他の門下生とコンサートを開くよう勧められたことだ。出口さんの素質を見抜いての誘いだったのだろう。シャンソンを本格的に学ぶ決心をして菅さんの門下生となったのは65年。2年後初舞台、3年後にはレコードデビューを成し遂げ、シャンソン歌手の仲間入りを果たすのである。

出口さんが、後進を発掘するため北区に構えたライブハウス「シャンソニエ ジルベール・ベコー」が、今年28年目を迎えている。ベコーさんの直筆サインを看板に使っているのもここだけなら、新人歌手のオーディションを続けているのも東京以西ではここだけである。

「詩を自分のものにすれば、声に心の色がついてきます。お腹からハートを通して、口から声を出す。そう思ったら、シャンソンって簡単でしょ」。出口さんから、シャンソンをめざす人たちへのアドバイスである。

(文・脇本勤／表紙写真 高島悠介)

※P5に「日本語で歌うやさしいシャンソン」の案内があります。

★ジルベール・ベコー…フランスのシャンソン界の巨匠(1927~2001年) 菅美紗緒…日本にシャンソンを紹介したパイオニア。日本語の訳詞も行う。(1916~2000年) ※いちょう並木編集部注